

**永遠の神であるエホバの慈愛、あわれみ、信実において彼を認識する**

聖書：エレミヤ 2:19. 10:10 前半. 11:20. 20:12. 哀 3:22-25. 5:19

I. エレミヤはしばしば神を万軍のエホバと呼びました——エレミヤ 2:19. 5:14. 6:9. 7:21. 9:7, 15, 17. 11:17. 20:12:

A. 「エホバは真の神である。彼こそ、生ける神、永遠の王である」——エレミヤ 10:10 前半:

1. 「エホバ」は、「わたしは、『わたしはある』である」を意味し、エホバが永遠の方、すなわち過去におられ、今おられ、未来の永遠におられる方であることを示します——出 3:14. 啓 1:4:
  - a. エホバは自ら存在し、永遠に存在する神です。この方は永遠に存在し、初めも終わりもありません——出 3:14。
  - b. 「わたしはある」は、ご自身以外に何にも依存しない方を示します——ヨハネ 8:24, 28, 58。
2. エホバは「ある」唯一の方であり、わたしたちは「彼はある」ことを信じなければなりません——ヘブル 11:6。
3. エホバは「わたしはある」方として、すべてを含む方、すべての積極的なものの実際、彼の民が必要とするすべてのものの実際です——ヨハネ 6:35. 8:12. 10:14. 11:25. 14:6。
4. エホバ以外に、他のすべては無です。彼は唯一「ある」方であり、存在の実際を持つ唯一の方です——ヘブル 11:6。

B. 「<sup>ただ</sup>義しく裁き、内なる各部分と心を試される万軍のエホバよ」——エレミヤ 11:20:

1. 「万軍のエホバ」という称号は、エホバ・神が大能者、天の全軍の主、全軍を統帥する方であることを示します——エレミヤ 20:12. 30:8. 48:1. 50:18. 列王上 22:19。
2. 万軍のエホバは栄光の王、強くて力ある方です。彼はもろもろの軍隊のエホバです——詩 24:8, 10。
3. 栄光の王、万軍のエホバは、究極的に完成された三一の神であり、勝利を得た来たるべきキリストに具体化されています。
4. 肉体と成り、十字架につけられ、復活したキリストとして、栄光の王は来て地を所有し、彼の王国にしようとしています:
  - a. 万軍のエホバは地の果てまでも戦いをやめさせます。彼は諸国民の間で高く上げられ、地上で高く上げられます——詩 46:9-10。
  - b. 万軍のエホバは権威を持ってすべての諸国民を支配します。そして彼

の御手は、王を廃し王を立てる権威を保持しています——ダニエル 2:21。

5. 祭司職が貧弱になった時、神は彼の御名を万軍のエホバとして啓示しました。それが示しているのは、神の行政がそのように貧弱な状態であったとき、神が出て来てその局面全体を支配し、彼の王国の統治をもたらすということです——サムエル上 1:3。

II. 「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」 —— 哀 5:19 :

- A. 19 節でエレミヤは、自分の立場と角度を変えて自分自身から神へと向きを変え、神の永遠の存在と不変の行政に言及しています。
- B. エルサレムは覆<sup>くぼ</sup>され、宮は焼かれ、神の民は連れ去られましたが、エホバ、宇宙の主はなおも彼の行政を執行しています。
- C. 「エホバよ、あなたは永遠にいまし」という句は、神が永遠であって、彼には何の変化もないことを示しています——哀 5:19 :
1. 神は変わることができず、いかなる環境や状況によっても何の変化もありません——詩 90:2. ローマ 16:25-26。
  2. 人の領域で、変化はあらゆる面で起こりますが、神の永遠の存在に変化はありません。神は永遠に同じままです。
  3. アブラハムは「エホバ、永遠の神の御名を呼び求めた」——創 21:33 :
    - a. ヘブル語で、「永遠の神」は「エル・オラム (El Olam)」です。「エル」は「大能者」を意味し、「オラム」は「永遠の」あるいは「永遠」を意味し、「隠す」あるいは「遮蔽<sup>しやへい</sup>する」を意味するヘブル語の語根から来ています。
    - b. 「エル・オラム」という神聖な称号は、永遠の命を暗示します——参照、ヨハネ 1:1, 4。
    - c. エホバ、永遠の大能者を呼び求めることによって、アブラハムは神を、永遠に生きる、秘密の、奥義的な方として経験しました。神は永遠の命です。
- D. 「あなたの御座は代々に至ります」という句は、神の永遠の変わらない行政を指しています——哀 5:19. 詩 45:6. 93:2. 啓 4:2-3 :
1. 神の御座には初めも終わりもありません。彼の御座は代々に至るまで存在します。
  2. 神の永遠の存在と変わらない行政に関する哀歌の終わりでのエレミヤの文書は、確かに神聖なものです :
    - a. 神の永遠の存在と彼の御座についてのエレミヤの言葉は、エレミヤが

哀歌を書いたとき、神のエコノミーに触れたという有力なしるしです。

b. 彼は自分の人の感覚から出て来て、神のパーソンと神の御座に触れ、神の神性の中へと入りました。

E. 新エルサレムで、神は彼のパーソンにおいて、また彼の行政において完全に明らかにされます。神のパーソンは永遠の王であり、神の行政は彼の永遠の、揺り動かされない王国です。神のパーソンと行政はいずれも、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です——ヘブル 12:28、啓 22:3。

III. 「わたしたちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。それらは朝ごとに新しい。『あなたの信実は大偉大です』」——哀 3:22-23 :

A. エホバはエレミヤに現れて言いました、「わたしはあなたを、慈愛をもって引き寄せてきた」——エレミヤ 31:3 :

1. エホバの慈愛は尊く、永存し、天よりも高く、神の建造の隅の石としてのキリストに導きます——詩 36:7, 9-10, 108:4, 118:1-4, 22-29, 136:1, 26。

2. 詩篇第 103 篇は神の歴史における神の慈愛と神のあわれみについて語っており、その中で神は彼の民の罪を赦し、彼らをいやし、贖い、顧みま

す。

3. 詩篇の作者はエホバに言いました、「わたしは、あなたの満ちあふれる慈愛の中で、あなたの家に入ります」——詩 5:7 :

a. シオンの山の宮に入る特権を持っている者はみな、神の慈愛の下にいなければなりません。

b. 実は、宮そのものに入ることは、神の満ちあふれる慈愛を享受することでした。

c. エホバの宮のただ中でエホバの慈愛を深く思うことは、わたしたちが召会の中で彼の慈愛に触れることを示しています。

4. 詩篇第 101 篇は、キリストがどのようにして慈愛と公正をもって地を支配するかを明らかにしています。

B. イスラエルの民は失敗しましたが、神のあわれみはイスラエルの残された者[レムナント]を守り、神のエコノミーを完成するようにはしました——哀 3:22-23 :

1. あわれみは、同情よりもさらに深く、細やかで、豊かです——ローマ 9:15, 詩 103:8。

エレミヤ書と哀歌  
メッセージ 7 (続き)

2. あわれみは、神の愛する本質から生み出された内側の愛情を指しています——Ⅱコリント 1:3. ヤコブ 5:11. ルカ 6:36。
  3. 神のあわれみ深い慈しみのゆえに、キリストは地に来ました——ルカ 1:78。
  4. エホバのあわれみは、「朝ごとに新しい」のです——哀 3:23 :
    - a. 23 節前半は、エレミヤが、あわれみ深い方としての主と朝ごとに接触したことを示しています。
    - b. 彼は主との接触を通して、神の慈愛、あわれみ、信実に関する言葉を受けました。
- C. エレミヤはエホバに、「あなたの信実は偉大です」と言いました——哀 3:23 後半 :
1. 神のあわれみが尽きることがないのは、彼が信実な方であるからです——詩 57:10。
  2. 神はご自身の言葉に対して信実です。神はご自身を否むことができません。神は彼の性質と彼の存在を否むことができません——Ⅱテモテ 2:13。
  3. 神は彼の信実の中で、わたしたちを御子の交わりへと召しました。神は彼の信実の中で、このあずかることと享受の中にわたしたちを保ちます——Ⅰコリント 1:9。
  4. わたしたちを召した信実な神はまた、わたしたちを徹底的に聖別し、わたしたちの全存在を完全に守ります——Ⅰテサロニケ 5:23-24。
- IV. 『エホバはわたしの分け前です』とわたしの魂は言う。それゆえ、わたしは彼を待ち望む——哀 3:24 :
- A. エホバがわたしたちの分け前であり、わたしたちが彼を待ち望むことについてのエレミヤの言葉は、新約の味わいを帯びています——コロサイ 1:12, 27 :
1. エレミヤはエホバを彼の分け前として享受し、自分自身や他の何をも待ち望んだのではなく、ただエホバを待ち望みました——哀 3:24 :
    - a. 一方で、エレミヤは、神が慈愛の神であること、彼があわれみ深いこと、彼の言葉が信実であることを認識していました。
    - b. もう一方で、エレミヤは、わたしたちがなおも毎朝、主と接触し、完全に彼に望みを置き、彼を待ち望み、彼の御名を呼び求める必要があることを認識していました——哀 3:23-25, 55。
  2. 詩篇の作者は、神の聖なる所へと入り、自分の状況に対して神聖な見方

と理解を持ったとき、神は永遠に自分の分け前であると言うことができました——詩 73:17, 26:

- a. 神の聖なる所において、詩篇の作者は教えられて、神以外の何ものでもなく、神ご自身だけを彼の分け前としました——詩 73:26。
- b. 神を尋ね求める者に対する神の意図は、彼らが神の中にあらゆるものを見いだし、神ご自身を絶対的に享受することからそらされないということです。

B. 「エホバは彼を待ち望む者と、彼を求める魂に対してすばらしく善い」——哀 3:25:

1. 神は真で、生きており、あわれみ深く、信実ですが、彼の民を試みるために、しばしば彼の言葉を成就することを遅らせます——詩 27:14, 130:6, イザヤ 8:17, 30:18, 64:4。
2. 永遠の神を待ち望むことが意味するのは、わたしたちが自分自身を終わらせるということです。すなわち、わたしたちは自分自身を生活、行ない、活動と共に停止し、神をキリストの中でわたしたちの命、パースン、置き換えとして受け入れます——イザヤ 40:28, 31:
  - a. わたしたちは主を待ち望む学課を学ぶ必要があります——イザヤ 30:18。
  - b. 今日は究極的完成の時ではありません。ですから、わたしたちは主を待ち望む必要があります——イザヤ 64:4。
3. わたしたちは主を待ち望んでいるとき、彼を捜し求め、彼を呼ぶべきです:
  - a. 「あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを尋ね見いだす」——エレミヤ 29:13。
  - b. 「わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない大いなる隠された事をあなたに告げよう」——エレミヤ 33:3。